婦人と新社會

山田わか主筆

三月號

愛の尺度

婦人と財産權

愛と正義

俗人の宗教觀

國民的經濟の基礎

變化を求めて

變化せざる佛蘭西

社會的活動の出發點

エッチ・ジー・ウエルスの婦人觀

黄昏に

教育社會學講話

毎月一回一日發行　第三十七號　大正十二年三月一日發行

大正十二年二月二十三日印刷納本

再版

山田わか著

戀愛の社會的意義

○四六特三百五十頁　定價金貳圓○
○總クロース美本　送料金拾五錢○

目次大要

富を造る事と幸福を造る事——戀愛と結婚——戀愛に對する男子の態度——菊榮氏の「女も進んで求婚すべし」に附て——結婚道德の一ツ——墮胎に附て——戀愛の自由と本能——女子敎育の基調——產業機關は臺所のため——戀愛と藝術——家庭を追はれた產業婦人——婦人運動の歸着點——メレデスの靈肉觀——母と社會政革——婦人の智的生活——禽獸の親子關係（其他十七問題）

發賣所

東京市四谷區南伊賀町四十一番地

婦人と新社會社

振替東京五三六八八

婦人と新社會

三月號

愛の尺度

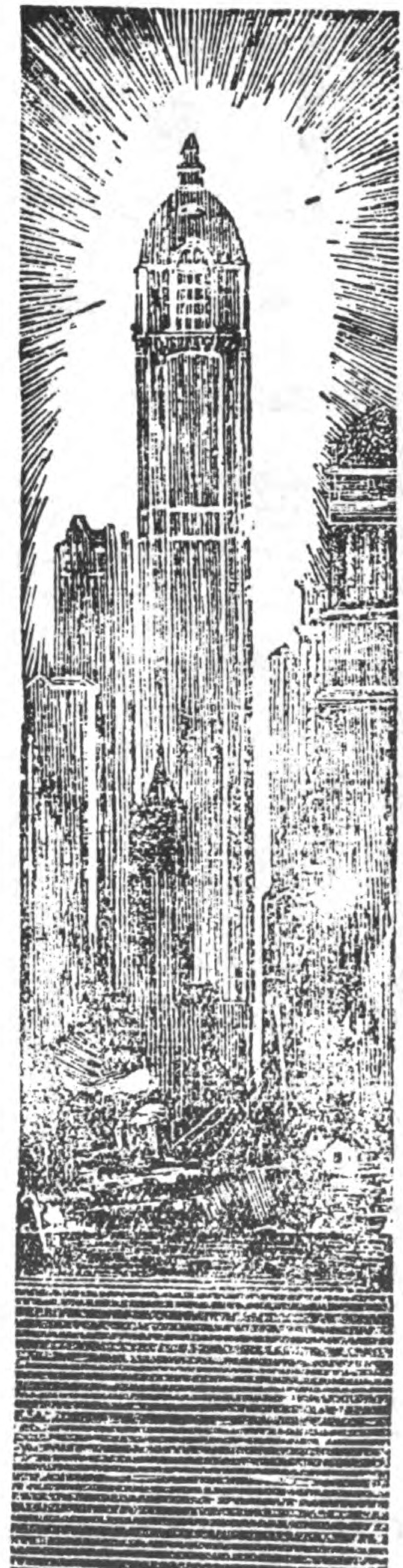
愛は不可解な力、偉大なる現象です。愛が今日迄に抽象化され理想化されきれなかつたことによつても、如何にそれが偉大なるものであるかと云ふことが分ります。けれども、愛は所謂神と同じく矢張り不可解なものであります。ですから、本當に愛と云ふものを了解すればする程愛が何であるかと云ふ定義を下すことが出來なくなります。

もし愛の定義を下す人があるとすれば、其れは猪口才な人でありますさう云ふ人は小さな理想的愛と云ふものを捏れ上げて若い人々に提供しますが、其れは恰も玩具製造人がいゝ加減な模倣品を造つては子供達に提供するのと同じです。

實物を模倣した玩具を實物と心得て居るならば、いつか必ず幻滅する時があります。愛に幻滅する人々が多いのは其のわけです。そして其の幻滅の苦しみは人間苦のうちの最大なる苦しみの一つです。自分の不明と不誠意のために自分も苦しみ、相手をも苦しめてゐる不幸の數は世間に餘まり澤山あり過ぎます。

人は永久に愛を求めて居て、そして、めつたに愛に滿足して居ないものでありますが、愛に不滿を感ずると云ふことに付ては、其の愛を計つて見る尺度を各々が所有して居るからでありませう　勿論其の尺度は無意識のうちに所有し使用してゐるのです。

そして、其の尺度とは何にかと云ふと、幼時父母に愛された其の愛であります。幼兒の目に映る父は必ず強い、博識な聰明な大人物であり母はいつも優しい、なさけ深い、保護の手を決してゆるめない無類な美人です　さう云ふものが理想化して心の奥に存在してゐる。そして、それに匹敵しない愛がいつも不滿なのでありませう。



婦人と財産權

一

日本現在の民法の婦人に關する或る條項が時代錯誤であると云ふことは既でに大方の認めてゐる事實であります。殊に、妻の位地にある婦人が無能者として・低能者として取り扱はれ、家の財産に對する權利を全く奪はれてしまつてゐることは由々しき不正であります。

例を擧げて見るなら、或る一人の婦人は小商人であつた男と結婚をして夫と力を合せ、二十年間の勤勞と節儉の結果、家を建て、店も可なり堅固な基礎の上に置くようになりました。生活には心配がないようになつたのですが、不幸にして子供がなかつたゝめに養子を貰ひ、其の養子に又嫁を貰ひました。そして、彼女は自分の生活は盤石の上にあると思つてゐました。

處が、或る夏の最中、彼女の夫は、赤痢にかゝつて、フット、此の地上から消へてしまゐました。

彼女と養子夫婦との間が平和で圓滿に暮して居られるなら何にも問題は起りません。けれども、なさぬ仲にありがちなことですが、彼女は養子夫婦が結束してゐて、何にかにつけ、自分が除け者にされて居ることに耐へられなくなりました。彼女は養子夫婦と別れて別な生活をしようと考へました。處が、自分が夫と二人で、人間一生のうちの働き盛りの殆んど全部を費して造り上げた家産の全部は、自分の夫が目をつ

ぶつた其の瞬間に悉く、昔の人の言葉で云ふならば竈の中の灰迄も養子のものになつてゐました。其の養子と同居するのが嫌やならば、彼女は無一物で其の家を出なければなりません。

同居して居ればこそ養子ですが、別れてしまへば、アカの他人に、自分等夫婦の一生の勞働の結晶を皆奪はれてしまつて、自分が其の日の必要品をも缺くと云ふことは何と云ふ無法、不正であるでせう。けれども、それが今日の日本の相續法なのです。

勿論親族會議が開かれました。けれども、さう云ふ場合ひには、權力を持つ者の方に付くと云ふのが人の常ですから、養子の戶主權を擁護して『家のためを思はないような人のために此の家の家產を分けるわけには行かない』と云ふのが其の決議で彼女は矢張り無一物で、自分の造つた家產、自分の建てた家を捨てなければなりませんでした。

妻に財產權が無いために起る悲劇は、此例の外にも數限りなくありますが、もう一

つの例を擧げて見るならば、夫であり、父である、つまり、家長である男子が放蕩のために家產を蕩盡し、子女の養敎育のために差し支へが出來そうになつても、家產に對して何等の權利をも附與されて居ない妻は、其の危急な場合を唯傍觀して居ねばならぬとは、何と云ふ馬鹿々々しい矛盾でありませう。

戶主權制度が制定された精神は、妻を始め一家族の一人々々を扶養し、保護する義務を戶主に負はせるつもりであつたでせう。又、それが制定される時分には一般の婦人自身も男子によりかゝつて居なければ生活が出來なかつたような狀態であつたゝめでもあつたでせうが、とにかく、其れは餘まりに時代錯誤であり、早速に改正を要するものであります。

二

私有財產其のものゝ可否の問題は別として、現代社會は、歐米の先進國は云ふに及ばず其の他の文明國の凡てが皆私有財產制度を基礎としてゐます。ですから、各國內

に於ける國民同志の競爭、乃至は、國際間の競爭は其の形式は何れであれ實質は皆此の私有財產の膨脹を計ることであります。

人は有識無識のうちに蓄財に勤めて居ることは事實です。なぜなら、現代が私有財產制度の上にのつかつてゐる以上、人が自分のために又は社會のために働かうとするには、他の要素も勿論必要でありますが、先づ、第一に必要なものは財力でありますから。

社會を動かしてゐる力が食慾と生殖慾であることは私が今更此處で云ふ必要がない程明らかな事實ですが、其の食慾は財產制度の進化に連れて發達し、遂ひに今日の國家を組織しました。ですから、今日の經濟制度、產業制度、其の外殆んど凡ての社會制度は皆私有財產制度に關係してゐます。否、私有財產制度を中心に廻轉してゐるものであります。

勿論、財產は衣食住の手段を意味するものであり、社會の一員として正當な義務を

盡すにはなくてはならない條件でありますので、今日迄の男子は此の財產に對する權利を足がゝりとして今日の此の社會を造り上げました。財產を蓄積し、そして、今日の此の社會を造り上げるに用ひられた力の半分は勿論婦人の力であつたのですが、今日迄、婦人の其の功績は無視されて居ました。

三

今日に於てこそ英米の婦人は結婚してもしなくても可なり完全な財產權を獲得して居ますが、五十年前迄は矢張り今日の日本婦人と大差ない狀態でありました。夫は自分の收入と位置に相當した生活に必要なものを妻に供給する義務があつて、自分の不在中に妻が借りたものに對しても返濟の義務がありました。

けれども、其の義務に對する夫の權利の第一のものは妻を離婚する權利でした。何か氣に入らないことがあれば、離緣狀を書いて妻の親の家へ彼女を返へすことが出來ました。それは絕對の權利でした。それから、夫の第二の權利は、もし、妻が死亡す

れば、妻が自分と結婚する時、持參して來た財産全部を自分の所有とすることが出來ました。夫の第三の權利は、妻特有の財産からの收益、又は、妻の職業から入る收入も全部夫のものとなつたのであります。そして、それは扶養の義務に對する報酬として考へられてあつたのです。これに反して、妻の義務は非常に大きく、主婦として母として妻としての義務の外に、無數の家庭内の仕事は元始時代の女と同じように彼女の生活を壓迫してゐました。

それにも拘らず、婦人の權利は實に僅かで今の日本婦人の權利と大差ないものであつたので、其れに對する不滿の聲は日に月に大きくなりました。そして、英國に於ては、一八七〇年に既婚婦人の財産法と云ふものが出來ました。其の法律をかいつまんで見ると、

『既婚婦人自身の收入及び貯蓄は絶對に彼女自身のものである。』と云ふのと、『既婚婦人に屬する財産からの收益は彼女自身のものである。けれども、それは二千圓未滿

である。そして、其の財産を管理することは夫の特權である。』と云ふのと、又、『既婚婦人は自身の利益のために自分自身の或ひは夫の生命保險に加入することが出來る。』と云ふのでありましたが、此の法律が出來た時には、其れが非常に過激なものであるように考へられて居ました。けれども、其れも亦忽ち婦人達の不滿を引き起しました。つまり、既婚婦人の不動產管理の權を夫が握つて居ること、彼女の所有を二千圓以下に限定してあるのは不當だと云ふのであります。其處で、一八八二年及び三年に於て、既婚婦人に屬する凡ての財產は動產不動產を問はず全部所有し得る權利を婦人は與へられました。

其の結果、英國に於ては既婚婦人も獨身婦人と同じように、夫の又は他人の干涉を受くることなく、自由に動產不動產を所有することが出來るし、賣買も出來るようになりました。のみならず、夫の承諾なくして契約も、訴訟も、又は、告訴も出來るようになりました。つまり、英國の婦人は財產所有に關しては法律上男子と同じように

なつてゐます。

米國に於ても、財産所有に關する法律は男子も女子も同じであります。そして、夫が死亡した場合ひには、家産は、子供が未丁年者であるならば、全部妻が相續します。そして、子供が丁年に達した時に全財産の半分を子供に讓ります。夫が死亡した時に子供が丁年者であるならば勿論子供が半分、妻が半分讓り受けるのです。

先づ、これが英米婦人の財産に關する進化の過程であります。

四

我が國は國際上一等國になつて居るにも拘らず、其の上に、内助の効と云ふ方面に於ても、又は、次代養成の任に對する忠實と云ふことに於ても、我が國の婦人は歐米の婦人に比較して優るとも決して劣つて居ないにも拘らず、財産に對する權利に關しては雲泥の差があります。

婦人が社會的には全く冬眠の狀態にあつた今日迄は其れでも濟んで來ました。けれ

ども、今日の社會は婦人の力と其の活動を要求してゐます。社會改造事業の成功不成功は婦人の活動不活動によるとさへ云はれてゐます。此の時に當つて、婦人に財産權なく、何事をするにも第一に其の動力となるべき財力を思ふまゝに使用することが出來ないならば婦人は頭があつても手足がないのと同じです。

殊に、既婚婦人の場合ひに於ては次代創造と云ふ大任が其の双肩にかゝつてゐます。けれども、夫の無思慮、又は遊蕩のために其の大任を果し得ぬと云ふようなことは國家のためにも由々しき損失です。

米國の或る州では前述の寡婦の權利の外に、夫の財産のうちから相當の金額を妻子の生活費として別にして置く權利があります。そして、其の別財産は一般の債權者に犯されることはありません。或る州に於ては、夫の醫藥又は葬費にも此の財産を使はせないことになつてゐます。

一體、妻の財産權と家庭とは密着な關係、否、むしろ、妻の財産權は家庭を基礎に

考へるものであります。次代創造の責任を負ふてゐる婦人をして其の任を全ふさせる爲に妻の財産權は確立されて居なければならないものです。

五

私共が、今、社會改革の過程の中に居ることは事實です。そして、其の社會改革は社會全體の構造を内容的に變化させねば止まないようになつてゐることも事實です。そして、結婚に關し家庭に關して隨分突飛な反逆的な意見も出てゐます。

けれども、家庭に對する制度も、他の諸制度と同じように、人々の勝手な想像に從つて變更され維持されるものではありません。家庭も有機的文明の一部であつて、其れと共存してゐる他の諸制度と一致して行かねばならない。從つて、他の諸制度と同じような進化を受けなければなりません。殊に、財産制度則ち經濟關係の進化に家庭は頼らなければならないのです。

ですから、どんな突飛な意見が出ようとも、單なる議論や、感情的な乃至は煽動的

な運動によつて未來の家庭の形式が決定されるものではありません。
勿論、社會が社會主義乃至は共產主義の社會になれば、生產の要具が私有財產より公有財產になりますから今日の家庭の基礎が破れると想像することは難くありません。今日に於ても、產業が一家庭內で行はれる代りに大規模な工場に於て無人格的に行はれることによつて、家庭が其の影響を受けて居ることは明らかな事實です。そして、もの丶狀態を早呑込みする人は、家庭は最早社會の單位でないなどと云つてゐます。
けれども、子供が男又は女一人から生れないで一人の子供が創造されるには必ず父と母と二人が必要である以上は、今日の家庭を改革する必要こそあつても、決して家庭を無用視することは出來ません。
人は、例外を除いて、必ず異性を愛します。子供を生みます。生れた子供は父母の愛と保護を要します。そして、其の父母と子供が同棲する處が家庭であるとすれば、

家庭は永久に存續し、其れが社會の單位となります。

そして、其の家庭の幸不幸は結婚當事者達の責任觀の有無によつて定まります。處で、其の當事者の片方が正當でない場合ひ、そして其の正當でない者が夫であるならば、つまり、共同の努力によつて家庭と云ふ車を廻して居つたのに其の車の一輪である夫が其の努力を怠るならばもう一輪である妻はどうすることも出來なくなります

此の場合にもし家產があるならばせめて其の管理は妻の手のうちに置き、もし、其れが無產階級の妻であるならば母性保護法によつて次代養成の任務を果させなければなりません。

六

婦人の財產權を確立するためには、現行法のように親の財產を長子である男子が全部讓り受けるのでなく、兄弟姉妹が或る條件の下に皆平等に分與されるのでなければ徹底しないでせうが、それは、別な問題として置いて、とにかく、夫に死なれた婦人

が、たとへ、夫の遺言なくとも路頭に迷はなくてもいゝように遺産法を改正すること、又は、夫が家産を蕩盡しさうになつた時に、子女の養敎育のため、一家の生計の安全を計るために、夫を制裁する或る種類の權利を妻が與へられることが、個人の幸福、社會の利益のために目下の緊急事であります。

七

一體、妻の財產權と家庭とは密着な關係、否、むしろ、婦人の財產權は家庭を基礎に考へるものであることは前にも申ました。けれども、社會主義及び共產主義は家庭の意義を無視しない迄も家庭其のものを弱くしようとする計畫であります。

彼等の意見によると、婦人の仕事は何であれ、婦人も男子と同じような割前を國家から受け取らせようとします。又、彼等のうちの或る一派は、男女の區別なく國家に對し貢献ある比例に於て受け取るべきだと云つて居りますが、併し、彼等の殆んど凡ての傾向は、婦人には子供を生むと云ふ作用があるから男子と同じ金額を婦人も國家

から受け取るべきだと云つて居ります。

或る者は、又、體力の點からも產業上の能率の點からも、社會主義の政策の下には男女同じようになつてしまうと信じて居ります。つまり、彼等の平等と自由の一般政策の下には、雇人は雇主から獨立になるし、既婚婦人は夫から獨立出來る。從つて、夫婦の間に則ち家庭內に精神的の要素はなく、フトした意見の相違から夫婦は容易に別れてしまうことが出來ます。云ひかへれば、夫婦は單に快樂を目的とする友人關係に過ぎないと云ふことになります。

で、此點に關しては社會主義者又は共產主義者の間にもいろ〳〵意見があるやうですが、とにかく、どうしても没却して置いてはならない事實は、婦人の生活は男子の生活とは違つて居るにも拘らず、經濟上夫と妻とを別な獨立なものにして置かうとすることとです。つまり、夫婦は單なる友人關係に於て同棲して居るので相互に何等の責任を負はないことであります。

夫婦がお互ひに責任を負はないことになると、肉體的に精神的に苦しめられるのはいつも妻の方です。妻の姙娠中、又は、授乳中、其の妻に對して責任を感じて居ない夫は、妻の肉體的精神的の苦惱を無視して勝手な方に走つて行くかも知れません。

ですから、社意主義及び共產主義の下には男女の平等、婦人の自由を計畫すると云つても、結局、婦人が苦しめられるようになることを考へなければなりません。

で、財產の共有は結局婦人の共有と云ふことになる。それが殆んど常に事實であつたし、又、さうならざるを得ないと云つて居る社會主義者及び共產主義者があります。

八

結婚關係、及び家庭改造に關する突飛な反逆的な過激な意見が臆面もなく、今は發表されて居ますが、併し、それは社會的の病氣のようなもので、一般社會はそれを受け付けません。そして、健全な社會の基礎となる健全な家庭は矢張り堅固な一婦一夫制、夫婦の分業、子供に對する兩親の責任の上に建設されたものであります。そして、

此處に付け加へたいのは、共和的家庭財產制度であります。今日迄に家族制度を研究した學者達が家庭なるものに付て種々の說を發表したにも拘らず、猶依然として動かないものは根深い一夫一婦の結婚關係、夫婦の分業、子供の敎育は家庭から始まるべきもの、そして、其の任務の大部分は母にあると云ふことです。

社會進化は家庭を無用視することの代りに、新しい家庭を實現することを要求してゐます。そして、それは自分の正しい勞力の結果を享有し、制限ある財力を保存し、科學的に其れを處理することを基礎として居なければなりません。かくの如き家庭が社會進化の結果今日の社會の要求であり、そして前にも云つた通り、財產制度が今日の社會の基礎である以上、其の家庭を主宰する妻には財產權がなければなりません。

社會の基礎である家庭を處理し、次代を養成する任務を負ふ主婦は夫の生と死とに拘らず、完全に一家の會計を立て、子女の養敎育の任を果すために、家庭に對する權利を確保して置かねばならぬと云ふとに付いては、進步した社會には異論がない筈です。



愛と正義

結婚問題、産兒制限の問題、及び、離婚問題、があちこちに絶間なく論ぜられて居りますが、併し、それ等の問題を一ツ〳〵切り離して論じて居たのでは、いつ迄たつても其の解決に達することは出來ない。なぜなら、それ等の問題を發してゐる根は一つでありますから。

海の表面に現れてゐる島と島の間に、又は、それ等の島と大陸との間には何等の連絡もないように水の表面からは見へてゐても、併し、其の水の底を探つて見れば、皆つながつてゐるように、前述の諸問題を發してゐる根は一つであるのです。則ち、それ等の諸問題は結婚の不備から起つて來てゐる場合が少なくないのです。

本當の意味の愛が結婚の中心となつてゐたならば、離婚問題も産兒制限問題も起つて來る筈がありません。

けれども、其の愛は人々の解釋によつて皆それ〴〵に其の姿を變へてゐます。たとへば、非常に利己主義的な愛となつたり、又は、餘まりに極端な自己犧牲になつたりして、ツイに、愛の根を枯死させてしまつて、愛と云ふものゝ本質をさへ失つてゐると云ふような狀態になつてゐますが、これは今日のいろ〳〵の議論の結果であります。

で、私は、今、此の愛はどう云ふものであるかに付いて少しくお話して、そして、前に擧げた三ツの問題の解決に聊か資したいと思ひます。

愛は社會的調和劑であるようにたび〳〵宣言されて居ります。愛の本質は確かに其れに違ひありません。けれども、凡ての愛が其のまゝで利他主義の完全なものと見る時には、それは、餘まりに缺點の多いものであると云ふことも、亦認めねばなりません。もと〳〵愛は人間が持つて居るものであり、其の人間から發射されるものであり、

そして、其の人間には不完全な點が數々ある。不完全と云ふことが人間の特長である以上、其の人間が現す愛に不完全な點があると云ふことは誰でも否むことの出來ない事實でありませう。

夫婦關係などは愛を完成する最上な好機會です。つまり、相手を全然抱擁し得る境に愛を進めるには夫婦關係は最も好都合な狀態にあるのですが、事實は多くの場合さうでない、結婚すると間もなく、どちらかの自己主張が二人の愛の中へ割り込んで來ます。そして、相手を壓迫し自己の利益を優勢にします。さうなると、美しい相互の抱擁性は徐々と薄らいで來ます。甚しきに至つては愛の半面正義を無視し、自己の延長なる子供をじやまにし、產兒の制限を主張するやうになつたりします。

完全なる調和の境に達した結婚生活と云ふものは滅多にありませんが、併し、其の境に達しようとすることが私共の理想であると云ふことに付ては何等のかはりがありません。其れは依然と貴いものであります。實に、完全なる調和の境に達した結婚は

最善最美な藝術品であります。そして、此の藝術品は天から自然に落ちて來るものではなく、結婚當事者の誠意と努力によつて創造するものです。動搖し易い愛の芽を二人共力して培ふことによつて健固な愛、貴い藝術品は完成されます。

そして此の愛を社會的調和劑と爲すためには、云ひ直せば、個人的であつた愛を社會とか、又は、國家とか云ふものに組み合せるには、其の愛の性質に大きな變化がなければなりません。つまり、個人的であつた愛情が正義と云ふものに變形して現れなければならないのです。

なぜなら、單なる愛は撰擇的で個人的であります。一人を選んで他の一切を排斥します。さう云ふ種類の愛が衆多の上に行き渡るものではありません。愛が社會全般に行き渡るものとなるには、さう云ふ狹い範圍から脫して正義と云ふものになつて居なければならない、そして、それは博愛と云つてもよいものでありませう。

と云つても、愛のうちに含まれてゐる結合力は勿論保存して置かなければならない、

けれども、他を彈く傾向を除去しなければなりません。かくして、社會全般に其の力を擴げて行く廣い愛、則ち、正義は個人的の愛をも抱擁することが出來ます。

處で、今日の一般の實際狀態を觀察して見ると、個人的愛を超越した、つまり、超人格の愛、則ち、正義と云ふものを求めて居る處の騷ぎではなく、實に、夫婦ですら、相互の利益の衝突をもつて結婚生活を始めます。そして、いくつかの矛盾した動機を持つて苦しんでゐます。

其の先づ第一の矛盾は自己滿足のために相手を利用しようとする動機であり、けれども、衝動的には相手を滿足させたい、と云つて自分の滿足を犧牲にすることは出來ない、と云ふことなどであります。或ひは、又、子供を立派な人物にしようとして、實は、子供を虐待することになつてゐたり、又は、子供を非常に愛撫して、一國民としては到底無用な人物を造り上げたりしてゐます。

一方には、又、家庭利己主義と云ふものがありますが、これは妻が夫に、又は、夫

が妻に衝動的に結び付き、或ひは又親が子供を盲目的に信ずることから始まります。此の盲目的又は衝動的な愛着乃至信用はどうしても排他的となります。

夫が妻に、又は、妻が夫に衝動的に結び付くに付いては其の原因がいくつかあります。容貌の美も其の原因の一つですし、其の他相手の力、知力的の出來ばへも影響しますし、又、同情と云ふことも其の原因の一つとなつてゐます。そして、一方が他の一方に呑み込まれて、趣味も考へも世間に對する態度も皆他の一方に同化します。從つて、夫婦の人生觀は非常に狹いものとなり、自分達以外の者の利害には無頓着となり、かくして家庭的利己主義が出來上がつてしまゐます。

相手の美點を誇大して、其の缺點を無視したり又は否定し、相手の信仰又は理想に無條件に獻身することを名譽とするようになり、そして、それに競爭的な傾向がからみついて、社會の上に及ぼすべき勢力も家庭内に止まつてしまふと云ふことになります。

此の家庭的利己主義は子供の上に一層强い影響を及ぼします。子供を愛する餘まり子供の慾望は何でもかなへなければならないように思ひ込み、子供の云ふことを一切信ずることによつて子供の誇大性をも信ずるようになります。親に全く信じられてゐる子供は自分の考へも行爲も一切が完全で正當であると信ずるようになります。實に

二

母親の無學なほめ言葉は子供を不當に高い位置へまつり上げてしまゐます。其の結果は、誰でも幾分かは持つてゐる高慢な心が增長し、進取的な傾向が猪口才となり、勇氣は弱い者いぢめとなります。で、かう云ふ狀態が猶一層有害な利己主義の土臺を造つてしまゐます。

さう云ふ利己主義的な家庭がいくつも〳〵出來上がつてゐる社會に於ては、產業關係に於て、職業關係に於て、政治關係に於て、矢張り、利己主義的な勢力の中心が出來上がつてしまゐます。

實に、一家族のうちの一員に家族の凡てが無茶苦茶に敬服することや、名家や金持

ちの子供を無やみに尊敬することが間違つた社會正義を造つてしまゐます。其の弊害が除去されない限りは到底健實な輿論は社會に沸いて來ません。

此の利己主義的な家庭は、一家庭内の範圍に於ては圓滿であるかも知れません。けれども、社會との圓滿を缺いてゐます。つまり、社會内の家庭と家庭との衝突は必ず絶へません。其の家庭と家庭との衝突が則ち競爭であります。

で、あらゆる家庭を分類すると、利己主義であるが故の個人主義的な家庭と、理想主義であるが故の個人主義的な家庭と二種になりますが、私共の目標とする處は、後者の理想主義であるが故の個人主義的家庭であります。

理想主義であるが故の個人主義的な家庭は一家庭としての自己實現を計ると同時に、如何にして其れを社會に調和せしむべきかと云ふことを忘れません。

實に、私共婦人並びに男子が、如何に社會的に生活すべきかと云ふ理想を持たずして結婚することが社會を混亂狀態に陷れる源であります。そして、其れは如何に社會

的に生活すべきかと云ふ知識を或ひは訓練を各家庭が缺いてゐたためです。そして、それが政治關係、經濟關係、敎育關係に影響して益々社會は混亂狀態に陷るのです。如何にして社會的に生活すべきかと云ふ知識が、或ひは、訓練が家庭から始まつて、そして、それが政治關係、經濟關係、職業關係、產業關係、敎育關係に行き渡つて、そして、始めて社會の平和を望むことが出來ます。其處迄、各個人が進步しないうちは、如何なる社會改造說も畢竟空文に終つてしまゐます。

如何にして社會的に生活すべきかと云ふ訓練を經た愛は、個人的の範圍を脫して、つまり、此の文の始めに云つた正義に變形してゐますから、其の愛の作用は廣く行き渡つて、其の影響は社會全般に及ぼします。つまり、社會全般に對する責任を感じての自己の行動は社會の幸福を增進し、そして、それが自己の幸福と結び付きます。これが職業上の責任の理想であります。大工であれ、醫者であれ、商人であれ、凡てが其の責任を感じ、愛の變形である正義に忠實であることによつて、實に此の地上は樂

圖となります。

其の意味で、純粹な藝術家や科學者は正義の人であります。彼等は有識無意識のうちに、人類の生活を豐富にするために獻身的に努力してゐます。藝術家や科學者は發見者であります。彼等は廣い世界を探險して、普通人の目が見ることの出來ないものを發見して、人類の知識を增大し、或ひは、美の世界を大きくします。

彼等は、それ〴〵の道に自身の一身を捧げても果して其の目的が達せられるかどうかは未定です。けれども、さう云ふ不安定を決して彼等を躊躇させません。つまり、自分の努力を社會が認めやうが認めまいが彼等は無關心に自分の道をまつしぐらに進んで行きます。そして、自己の慾望を滿足させると同時にそれが必ず社會の幸福の增進となることを信じて疑ひません。

ですから、純粹な科學者は智力上の軍人と云はれてゐます。なぜなら、自分の志す目的に於て、成功するか失敗するかも分らないのに、他の言葉をもつて云へば、敗け

るか勝つか分らない戰爭に於て、進んで自分の一命を賭るからであります。彼等の態度は、實に徹底的に利地主義であります。

此の、個人の範圍を脫した愛があつて、始めて利地主義は完全なしつかりした表現を爲すことが出來ます。

かう云ふ種類の愛が結婚の出立點となり、そして、家庭が造られた時には、如何なる事情が突發しても離婚と云ふようなことに行く筈もなく、產兒制限の必要が起る筈もなく、又、財產に關しても結婚當事者達の理智と周圍の事情が許す範圍內に於て最善な方法が取つてある筈ですから、夫が死亡した場合にも妻が早速經濟上途方にくれると云ふやうなことはありません。つまり、正義に近い完全な愛を基礎として結婚をすると云ふことによつて、凡ての問題を解決し得ることは想像に難くないのであります。



俗人の宗教觀

世の中が進めば進む程知識慾が盛んになります。そして一切の問題が知識で解決されると考へるやうになります。

勿論、知識は私共の生活のために重要なるものであり多くの問題を解決するに無くてならないものでありますが、と云つて、知識にばかり頼ることは危険であることを思はなければなりません。

なぜなら、最高知識でも倫理的權威としては甚だ不完全なものであります。ものは微分子から出來てゐると云ふことだの、ものゝ發端は火であり、水であり、土であると云ふことが分つても、善と惡の性質が明瞭になつても、好きと嫌ひの度が計れても、ものに對する運動、ものから來る運動が正確に分つても　それだけでは倫理的權威とはなりません。

人間はものを理解してしまうと、もう、其のものには支配されなくなります。そして、其のものを支配するやうになりま

す。ですから、人間が理解した知識は人間の下僕です。西洋人は多くの知識を自分等の下僕として働かせて、大きさに於て速度に於て、又金力に於て、偉大なる文明を建設しました。

けれども、其の文明は西洋人の下僕なる知識が造つたもの、つまり、要するに西洋人の下僕でありますから西洋人を支配するものではなく、西洋人が其れを支配します。ですから、もし 西洋人が利己主義ならば其の文明も亦利己主義的であるのは當然です。

其處で、人間を統御し、治めて行く力は知識以外になければなりませんが、其の力はあります。其の力が人間を御し統一します。そして、其の統御力の大小によつて一國民の眞の進歩の速度は計られます。

そして、其の力とは理想に向つて進む人々を統一し德義心の源泉となる利己的でない不可解な熱誠なる力です。此の力が人間を支配します。此の力が人間自身と人間が創造した文明を支配します。其の力に支配される文明が眞の文明です。そして、此の熱誠なる力が宗教です。

處で、凡て、外の社會制度の部門と同じやうに、此の宗教に對しても其の改造が叫ばれて居るのは我が日本ばかりではありませんが、一體、宗教は精神的價値の實在を信ずることであり、そして、其の價値は私共個人的及び社會的生活に密着に喰付いてゐるものであり、そして、

其の價値を全人類に延長しようとするものであります。

勿論、さうするには、どうしても、矢張り、社會に對する科學的の知識が伴はなければなりません。云ひ直せば、人格と社會に對する科學的知識との結合が必要でありますが、其の結合がいはゞ宗教の改造であります。

日本では宗教と云へば、直ぐ、佛教を聯想します。そして、佛教と云へば、直ぐ、印度哲學を聯想します。勿論、佛教の背景には印度哲學が存在して居るので、或は、むしろ、印度哲學の背景に佛教があるのかも知れませんが、甚しきに至つては佛教と印度哲學とを同視して居る人々さへあります。けれども、此の宗教の問題は哲學的と云ふよりは、むしろ、社會學的のものであると私は考へます。ですから、宗教は哲學の支配を受けて居てはならないものでありませう。

佛に仕へたり、神に奉公したりする唯一の手段は人間に奉公することです。他の言葉をもつて云へば社會に奉公することです。

釋迦、又は、基督は、丁度、コペルニカスが天文學の土臺を築き、ダーウインが生物學の土臺を造つたように宗教と倫理の礎を据へたのです。ですから、釋迦、又は、基督は私共の生活を私共の同胞と共によりよき方向に導きつゝある終極の實在です。其處で、釋迦乃至は基督の意志をより十分に實現させるように私共に

敎へる人が則ち宗敎家であります。ですから、神、又は、佛と人間との關係を、親と子の關係のやうに親密なものとしようとするのが宗敎家の仕事です。

けれども、此處で注意を要する點は、同じ宗敎家と稱せられる人でも、トルストイとか、ガンヂイーとか云ふ人は主もに經濟的宗敎家でありました。つまり、精神を救ふと云ふよりも、生活を救ふと云ふ方に其の力の大部分が行つて居ました。

此の傾向は、單に、宗敎に於てばかりでなく、敎育の方面にもあります。今日の一般の敎育が此の弊にかゝつてゐます。そして、意志の敎育であるべき筈の處が感情敎育になつてしまつてゐます。宗敎も矢張り意志の宗敎であるべき筈の處を、感情の宗敎となつてしまつてゐます。

要するに、宗敎は渴望と知識との總合を建設する熱誠なる力でなければならない。そして、其の力を家庭に政治に經濟に遊戲に應用しなければならない。云ひかへれば、人格を大きくして、隣へ隣へと接觸して行き、ツイには社會の統一を實現しようとする。いはゞ、宗敎は人格を養つてだん〴〵大きくして行かうとする精神上の食物であります。

肉體が無意識に食物を要求するように、人の心が宗敎と言ふ精神上の食物を自然に要求するようにならなければなりません。則ち、宗敎生活は人の本能生活

でなくてはならない。そして、さうするには人が生れると直ちに否、生れる前から母親から此の宗教的本能を植へ付けられて居なければならない。此の仕事が恐らく母親にとつては最も大切な仕事でありませう。そして此の仕事を完成することによつて、つまり、婦人は自分の子供を通して社會に奉仕することが出來ます。

國家的經濟の基礎

最近獨逸に於ては燃料經濟の必要に迫られいろ〳〵の方面に於て熱心に其の研究が進められてゐるが、此の點に關しては實に世界一の觀がある。其の上に石炭の價の騰貴を防ぐために全國の石炭を使用する蒸氣機關を調査して石炭を多量に要する舊式の機械を廢し少量の石炭で用の足りる新式の機械を使用するように各工場主に勸告してゐる。

曾て合衆國ミルオーキー市にもさう云ふことがあつた。ギャス會社が三つあつて其のうちの二つは舊式の機械を使用してゐたが、一つは新式の機械を使用してゐて、より安いギャスを消費者に供給してゐた。舊式の機械を使用してゐる會社側の隨分頑強な反抗があつたにも拘らずミルウオーキー市民は全市民の利益のために輿論に訴へ會社に迫つて、とう〳〵新式の機械を購入せしめたことがある。

我が國民には果してかくの如き常識的國家經濟に對する能力ありや無しや？他の機械を別として、船舶ばかりでも石炭を多量に要する舊式の蒸氣機關が八九割を占めてゐると云ふことである。石炭の價格が非常に暴騰してゐるにも拘らず其防止策に附て考ふる人はなく、徒らに、何等の見込みも付かない政治運動のから騒ぎなどに我が國民は熱中してゐる。ミルウオーキー市民のギャス調節、獨逸國民の燃料調節の如き常識的な眞面目な實行可能な運動に熱心になることによつて國民思想の健全を期し、立憲國民の生命たる健全なる輿論を喚起する好適例を示すことになるであらう。



變化を求めて變化せざる佛蘭西

山田嘉吉

獨逸に付て云ひたいことはまだ澤山あるが、併し、いつ迄も一つ處にかゝはつてゐるわけには行かないから、それは止めて今度は佛蘭西に付て話して見ようと思ふ。

と云つて其れは佛蘭西の藝術がどうであるとか、サンデカリストがどうだとか、又は、佛蘭西婦人がどんなことをして居るとか云ふようなことではない。さう云ふ表面に現れてゐることに付ては可なり多くの紹介がある。尤も、其の紹介なるものは區々であつて、どれを眞實なものとして信じてい丶のか分らないと云ふような狀態であるが。事實の報道でありながら、其處にいろ〱な差が現れて來ると云ふのは、其の事實の裏面に働いて居る佛蘭西國民の心理が了解されてゐないからだと思ふ。同じ事實を報道するにも其の事實の裏面に働いてゐる佛蘭西國民の心理を了解してゐる――有識無意識のうちに――度の違ひによつて其處に差が現れて來るのである。其處で、私は今私

の了解し得た佛蘭西國民の心理と云つたようなものに付て少し話して見ようと思ふのである。

前號に於ても云つたように今日の歐洲の問題の中心は獨逸であると同時に、其の獨逸の相役は誰でもが知るように佛蘭西である。そして、此の佛蘭西は歐洲の思想界に常に新しい思想を注入してゐるから、今日の歐洲を理解するにはどうしても佛蘭西を或る程度迄知つて置く必要がある　そして、佛蘭西人の性格を理解することが、佛蘭西及び佛蘭西以外の歐洲を理解する鍵である。歐洲の國際政治を理解する上に於て、殊に、さうだ。餘程以前のことではあるが、巴里會議の内容に精通してゐる國際政治の批評家は云つた。

『佛蘭西は英國及び米國に對する地歩を失つてしまつた。けれども、其の落度はむしろ英國人にあるのだ。英國が佛蘭西を了解せず、其のために新しい歐洲を建設するに必要なる佛蘭西人の天才及び佛蘭西人の政治的能力を發揮せしめず、そして、それを利用することが出來ないならば、たとへ、英米が同盟しても、或ひは國際聯盟が完成しても、到底、其の損害を償ふことは出來ない。』と。

實に、其の通りだつた。過去三年の間も米國と英國、殊に、英國は佛蘭西人の心理を了解してゐなかつた。又、了解しようともしなかつた。そして　佛蘭西は失望し、立腹し、且つ又、新しい歐洲を

建設するために努力しようとしても、さうすることが出來なかつた。其の結果、歐洲は現に今我々が見る如く、楫を失つた船が荒れた海の中に漂つてゐると云ふようなかたちになつてゐる。

なぜ、佛蘭西は國際聯盟のために本氣になつて働かなかつたか？　世界中の利益のためのいろ〳〵の政策や提案に對して、何故、佛蘭西がいつも障碍になつて居るか？　たとへば、軍備縮少の政策や、又は、獨逸を國際聯盟に加入せしむることに對して何故佛蘭西は反對したか？　佛蘭西が贊成しさへすれば歐洲は立直しが出來て確固とした基礎の上に立つことが出來る時に。英國は、佛蘭西がそれ等の事柄に贊成するのが當然だと信じ、且つ又、それが世界平和のために必然な手續きであると信じてゐた。

けれども、佛蘭西の態度は、英國及び世界各國の豫期に反してゐた。そして、其の理由は明瞭である。獨逸に對する恐怖、憤怒、及び、疑惑が佛蘭西をして英國及び世界各國の豫期する通りの態度に出でしめなかつたのである。佛蘭西は此の五十年間に二度獨逸を敵とした。佛蘭西は佛蘭西の東の方の國境が獨逸に犯されることを常に恐れて居る。

獨逸に對する英國最近の政策は、佛蘭西にとつてばかりでなく佛蘭西に同情をもつてゐる他の國にとつても、其れが感情主義と商業主義の混合物であるように思へる。そして、これは、獨逸軍のため

に其の工場の大部分を破壊されてゐる佛蘭西人にとつては最も不愉快なことなのだ。

實に、佛蘭西の戰跡は慘憺たるもので、今のまゝでは到底以前の同盟國と歩調を合せて產業を營むことは全く不可能である程に工場は破壊され土地は荒されてゐるのだ。故に、對獨逸の英國の態度に對して、感じ易い精神を持つてゐる佛蘭西人が其の不公平を怒るのも無理のない處だ。

獨逸の爆彈に襲はれた地方は至る處、一方には恐しい大きな土の山、一方には大きな深い穴が出來てゐるのだが、其れをもとの通りの平らな土地にして有効に使用出來るようにするのはいつのことか今の處では其の見當さへ付かないと云ふような有様である。其の上に佛蘭西は多くの壯丁を失つてゐる。佛蘭西をそれだけ苦しめてゐる獨逸の商業政策に資するような態度に英國が出てゐることに關しては何としても佛蘭西人には耐へられないのである。其處で、佛蘭西人はもう一度英國人に對して疑惑を持つようになつて來たのである。

であるから、佛蘭西が戰前の位置に歸へり、道理に從ひ、調和の重もなる要素となり、そして、歐洲に平和を招來せしめようとするならば、佛蘭西人の骨髓に徹してゐる恐怖を取り去り、其の無理ならぬ怒りを先づなだめなければならない。

そして、佛蘭西の其の恐怖を除去する最適任者は矢張り英米である。佛蘭西人の其の恐怖は一種のハルシネーションであるかも知れないと云ふ人もある。けれども、ハルシネーションであれ何であれ、其れが佛蘭西人の心に存在してゐる間は今日の難局を解決する道を見出すことが出來ないのである。故に、何は置いても、佛蘭西人の此の恐怖を除去することが今日の急務である。そして、其の仕事は英米の仕事である。むしろ、それは英國の仕事であらう。

何故なら、今の米國はラフエットが米國のために英國に反對して奮鬪した時の米國ではないから、充分に有形無形に佛蘭西を補助出來る狀態となつてゐない。少なくとも、米國人の殆んど三分の一は獨逸系の人で、獨逸を助けて佛蘭西を破壞したいと云ふ希望を持つてゐる。けれども、流石に正義のために其の慾望を滿たすことは出來なかつたが、其の滿たされぬ不滿が、佛蘭西を補助しようとする輿論をしぶらせてゐるのである。

其の上に英國は米國からの借金を整理する上に幾分米國に諂ふ必要がある。諂はない迄も米國の感情を害してはならないのだ。處で、英國が佛蘭西に對して好意を示すことは、獨逸系の米國人の感情を害することになるのである。

大きく、冷靜にものを考へる大政治家は、英國と佛國と新獨逸は利益が共通で

あること、そして、冒險や復讐の政策は決して最後迄成功するものでないことは明白な事實であることを知つてゐるのであるが、其の明白な理窟が通らないのは、各國の傳統と感情の問題を突破することが如何に困難であるかと云ふことを示して居るのである。

それは、さて置き、新獨逸、又は、若い獨逸と云ふ言葉があるが、これと相對峙して若い佛蘭西と云ふ言葉が佛蘭西人の中で用ひられてゐる。若い佛蘭西と云ふ言葉はあるが、併し、新しい佛蘭西と云ふ言葉はない。今回の戰爭も佛蘭西を新しくはしなかつた。今の佛蘭西には何等の奇蹟もなければ、ジアンダークも居ない。

或る人の說によると、佛蘭西は救はれた。少なくとも、佛蘭西精神は滅亡を逃れた。のみならず、佛蘭西青年は非常に變つて來た、と。けれども、本當に佛蘭西を了解してゐる人は新しい佛蘭西と云ふものはない。佛蘭西は依然と舊い佛蘭西であることを知つてゐる。

又、或る人の話を聞くと、佛蘭西は墮落し、昔の佛蘭西精神と云ふものは無くなり、國民は非難好きになり、青年は無精力となり、いよ／＼危機が迫まつた時に、新しい佛蘭西が生れたと云ふ。

けれども、佛蘭西にいよ／＼國家的の危機が迫り、國民の運命を賭さなければならない時が來た時に、佛蘭西に於ては非戰論者と主戰論者が同盟し、日頃、犬

狹たゞならざる宗教家と無政府主義者が合體し最後迄國家のために戰つたことは誰でも知つてゐる。そして、佛蘭西人は征服されるよりも、むしろ、戰死する方を選んで居た。そして、何十萬かの若い佛蘭西人は死んだのだが、併し、死に瀕して居ながらも彼等は最後の勝利を疑つて居なかつた。そして、其の精神は何處迄も古い〳〵佛蘭西精神であつた。

今回の戰爭は最も神聖な戰爭であつたと佛蘭西人は信じて居る。若い佛蘭西は恐しい大きな損害を蒙つた。けれども、其の損害の穴はやがてうめられてそして、矢張り佛蘭西の思想界が知識のたいまつを世界中に持ち歩き得るようになることを佛蘭西人は信じて居る。そして、それは矢張り古い〳〵佛蘭西精神である。

一體、若い佛蘭西と云ふものは、一八九〇年代の二十歲前後の軍人によつて代表されてゐたものである。そして、其の軍人は今は老兵になつて居て、今回の戰爭にも矢張り戰線に立つて居た。けれども、現代の思想的佛蘭西に冠するに若い佛蘭西と云ふ名は便利である。今日の佛蘭西の思想家藝術家及び政治家も亦若い佛蘭西と云ふことを標榜してゐる。

さて、其の若い佛蘭西と云ふ言葉を抽象的に云つて見ると、其れは大戰後の佛蘭西思想を次代の佛蘭西に傳へることである。一八七〇年から一九一四年の間を結び付て置いたものが若い佛蘭西だつた

が、今回の大戰後の佛蘭西を次代の佛蘭西に、又、結び付けて置く力が矢張り若い佛蘭西であるのである。

外面から見るならば若い佛蘭西は思想に於ては轉々として變つて行くように見ゆる。一八八〇年代のモリス●バレスは藝術家で無政府主義者であつた。けれども、其の同じバレスが今では愛國聯盟の會長である。ボルテールを歌つたグールモンも、ジヤンダークを歌つたペギーも佛蘭西人であつた。ボルテールからアミールに迄、ボアローからベルレーヌに迄、これ皆一つの佛蘭西思想の活動寫眞である。云ひ直せば後から〳〵生れて來る若い佛蘭西は、前の若い佛蘭西を蹴飛しては新しい哲學を造り、そして、同じ世界を新らしく讀み直して居るのである。

シンボリズムや藝術のための藝術や、又は、無政府主義と云ふようなものが、一八九〇年代迄の若い佛蘭西の第一相である。そして、人生の神秘主義や、生活のための生活や、自然に歸へれの標語が、先づ、十九世紀の終り迄の第二相であつて、そして、第三相は宗敎上のオーソドキシーの復活、ネオ●クラシシズム及び建設的社會政策等である。

實に、一時期の若い佛蘭西は、其の前期の若い佛蘭西の信仰と猛烈に戰つて來て居るのであるが、それが則ち佛蘭西人なのである。戰つて來ては居るのであるが、併し、其の精神は永久に一つものであると云ふことを忘れてはならない。

ペルレーヌは一度は『馬鹿』と云ふ定評を受けてゐた。其の次には馬鹿ではないが『無學』であると銘を打たれてゐた。其の次には、非常に『喜劇的』だと云はれ、又、其の次には、『滑稽だが併し其の中に本當の氣分がある』と云はれ、それから、又、『不可能なことを云ふ怪物だ』と云ふ評を受け、最後に、彼は『一大詩人』であると云ふことを確かに認められた。併し、さう云ふ風にいろ〳〵に見られてゐる間にもペルレーヌは矢張り同じペルレーヌであつたのである。

いはゆる戰爭によつて倒れては立ち、死んでは生れして居ても、つまり、佛國の看板はいろ〳〵に變つても、併し、其の裏面にはいつも同じ精神が活躍してゐる。云ひかへれば、川の表面を流れる水の色及び其のかたちはいろ〳〵に變つても其の底を流れてゐる水は依然と同じものであつたのである。

もう一つ例を擧げて云ふならば佛蘭西に於ては藝術のための藝術が非常に神聖視され神祕であるとされて居たが、それが、其の次には馬鹿氣たことに思はれ、そして、又、其の次には以前のように神聖視されるようになつた。

要するに佛蘭西人は建設を標榜してゐる國民である。そして、餘まりに建設的であるが故に破壞的であるとも云へる。つまり、建設に熱心であるあまり折々純理の奴隷になると云ふ傾きがある。であるから、佛蘭西人は或る意味に於て、ポ

ードレール其のまゝである。ボードレールは人間を尊重するの餘まり乞食に施しをすることを烈しく抗んだ。彼は乞食に向つて云つた。『もし、お前が私を毆打したならば私は私の所有するものの一切をお前に與へたかも知れない！』と。

とにかく、佛蘭西人にとつては哲學と藝術が生存競爭の渦卷の中から一時逃れる唯一の慰安である。今回の戰爭中、塹壕の中に於てすら、音樂、文學、及び、繪畫等が創作されたことによつても、佛蘭西人の性格が彷彿する。佛蘭人は、又、思想と云ふものは暗夜の電光であると信じてゐる。で、思ふに、今後も若い佛蘭西が矢張り世界の思想界に活躍するだらう。

今後の若い佛蘭西が何を爲すであらうかと云ふことは、誰にも適確には云へないとしても、とにかく、唯一つ明らかに分つてゐることは、益々佛蘭西人的になること、云ひかへれば、古くから傳つて來た佛蘭西精神を益々發揮するであらうと云ふことは確かである。

佛蘭西人は有識無意識のうちに一種の藝術的哲學的國家主義を建設しようとする希望を持つてゐる。そして、それが佛蘭西精神であり、其の精神に反抗するものは、其れが個人であれ、團體であれ、又は、外國であれ、永久に佛蘭西人の怒りと呪ひを受けなければならない。

要するに、佛蘭西思想とは本能と知力の爭ひである。常に新しいもの〳〵に移

つて行く佛蘭西人が依然と古い佛蘭西精神に支配される處に佛蘭西の進歩と强味がある。則ち、佛蘭西人は思想界の優勝劣敗を超越した人道主義の持主である。價値の創造よりも猶一層價値の保存を貴む國民である。云ひかへれば、適者生存を人道化することを國民の精神とする點は我が國民性に似た處がある。如何なる價値の創造者が後から現れても價値の保存者を犯すことはしない。

　誰でもナポレオンの墓を訪ふ者は脱帽の强制に逢つて一揖するだらう。けれども、ナポレオンが依然と佛蘭西を支配して居ることを思へば、それが當然であることに、又、驚く。で、一方に、變化の哲學の著者は同じく佛蘭西人である。けれども、ベルグソンが變化を主張するのは知力の當てにならないことの徵象であつて人間は何處迄も本能に支配さるゝことの强さを力說したと同じである。して見ると、脱帽の强制もベルグソニアン哲學も等しく佛蘭西精神の根より發して居ると云ふことが出來る。

　一言で云ふなら、佛蘭西は常に變化を求めて居て、そして、變化しない國である。

黄昏に

原田琴子

たそがれの鐘は鳴る
森の上に
町の上に
はた水の上に

人々はやすらはんとて
おのがじゝ
家にかへる

見よ
家々の窓にともる
美しきともし灯を

かゝる時われは
いとせちにこそ
わが逝きし子を思へ

隔離舎のさびしき室にやみゐつゝ
わが夢はつれに
和郎よ
おんみが上にありき

おんみもまたやみて
やまひ重してふ
父のたよりをよみにしは
こがらし寒く吹きすさぶ
入日のあかき夕なりき

思ひつゝ日と夜はすぎて
こえて七日の夜
同じやうに風の吹く
さむ〳〵とせし晩なりし

おんみが逝きし報をきゝ
いとせめて
病院より家にかへる
おんみをのせたる自動車の
轍の音をきかんとて
静まれる病舎の夜ふけに
たゞひとり母は
めざめゐき

あゝ母は病いえて
家にかへれども
いとをしきおんみはあらず
おんみが振りてよろこびし
おもちやの鈴はのこれど

社會的活動の出發點

毎年二月の末頃になると、寒さが非常に烈しく、あちこちに雪の跡さへ殘つてゐるにも拘らず、消へかゝつてゐる雪の間から、庭の隅々からほのかに陽春の氣が氣ざしてゐると同じように、女性の世界からもほのかに光明が現れ出ようとして、まだ、確實に、はつきりと現れてゐないと云ふ觀があります。

一般婦人は如何にも氣樂で、婦人問題が何であるかさへ解せずに、何百年來の習慣を追ふて少しの疑ひも起さずに妄動してゐます。女子教育は盛んになり、私共が小娘の時代とは比較にならぬ程、一般女子は學校教育を受けるために金と時間を費してゐますが、さて、其の學校教育を受けた婦人達が前時代の婦人達よりはどの位ひ進歩向上してゐるかと云ふと、其處に著しい差違があるとは考へられません。

二十年前の若い婦人の服裝は今の五十以上の婦人の服裝のやうにジミであつたのに反して、此の頃の婦人の服裝はケバ〲しく派手でありますが、今の高い教育を受けたと稱する婦人も、其の實質に於ては前時代の婦人と大差ない。つまり、服裝の變化と同じ位ひの効力しかないかのような觀があります。

他の言葉をもつて云へば、昔の婦人が嫁入りするのに、簞笥の數の多いのを誇りとして居たと同じ意味で、高い教育を受けたと云ふことを誇りとして居るので、實質的には何等見るべきものがないのであります。

かと思ふと、一方には、男性模倣の西洋思想を鵜呑みにして、舊いもの〻一切を破壞することをもつて痛快事として居る急進的な所謂新しがり屋があります。

これを一言で申しますならば、大多數の婦人の生活は

アブクのやうな生活であり、少數の所謂自覺したと云はれてゐる婦人の生活は變態であり、其の思想に於ては破壞的であり、從つて、女性としての性情を缺き、圓滿な充實した幸福な生活を送ることの代りに、潤ひのないヒカラビタ人間となつて居る。つまり、其の兩者が人生のリアリテーに觸れて居ないのであります。

人生のリアリテーに觸れて居ないから自分自身と云ふものを明確に見ることが出來ない。自分の頭にはウジヤ〳〵蠅がたかつて居ても其れには氣が付かずに、他人の頭の蠅を追ふことに熱中して、『全世界の同性のために』とか、又は『人道のために』とか、或ひは又、『全世界の第四階級のために』とか絶叫し、奔走する特志家が餘まりに澤山あります。

私共が人類學や人種學から元始時代の社會に付て學び得た處のものを總合すれば、人生の第一の仕事は生きて行くと云ふことです。そして、生きて行くに、先づ必要なものは思想ではなく行爲であつたと云ふことです。各瞬間が私共に必要を持つて來ます。そして、其の必要が私共の行爲を要求します。其の必要と云ふことが私共の第一の經驗でありますが、其の必要に對して、どう云ふ行爲をするかと云ふことが問題です。

今迄の人々の失敗は其の必要を正當に滿すことの代りに誤まつた行爲に出て居ます。實に、其の必要を滿たす方法の如何によつて社會は善くも惡くもなるのです。なぜなら、其の必要を滿すことが社會を動かして居る力ですから。

社會其のものは人爲的のものではなく、自然の發達でありますが、唯、其の發達を人爲によつて早くしたり、又は、發達の經路を妨げて居るものを取り除くに過ぎないものです。

一言で云ふならば、私共の考への裏面には必ず其の考へを裏書きする實際生活其のものが無ければなりません。

民主々義と云ひ、普選と云ひ、國際主義と云ひ、それは皆一種の思想、むしろ、しるしに過ぎないものです。他の言葉をもつて云ふならば、それは一種の紙幣のようなものです。紙幣が至る處で有効に通用するのは其の紙幣に對する準備金があるからで、其の準備金

のない紙幣は世間に信用がなく、額面通りに通用しないと云ふことは露西亞のルーブル獨逸のマルクがよく證據立てゝゐます。それと同じようで、思想が有効に通用しないのは、其の思想を裏書きする實際生活と、其の實際生活とから來るのつぴきならぬ必要がないからです。

たとへ、出つて居ようとも、不完全であらうとも、社會構造と云ふものは堅固に出來てゐて、たとへば、珊瑚蟲が珊瑚島を除々に造り上げたように長年かゝつて今日の此のかたちの社會が出來上がつてゐるのですから、まだクチバシの黄色い小娘や、自分の頭の蠅に氣の付かないような人の手で、此の社會はだんごの形を直すように容易に直し得るものではありません。

其處で、私は、アブクのような生活を送つて居る婦人達に對しても、並びに、所謂自覺したと云はれてゐる婦人達に對しても、先づ、何は置いても人生のリアリテーを掴んで貰いたいと申ます。

社會的事業に手は出さなくても、新聞紙上に名をうたはれなくとも、思想のための思想に動かされるようなことなく、健實に、女性は女性としての生活を忠實に營むことによつて、私共は社會構造の最高な建築者となる光榮に浴することが出來ると云ふことを知つて貰ひたいと思ひます。

エッチ・ジー・ウエルスの婦人觀

婦人運動が起つて以來、先覺者達は、新婦人を造らうとする其の方法に不完全な點があることを知つてゐ

ます。

實は、一體、新婦人とはどんな風の婦人であるのか？　未來の婦人はどんな人間になればいゝのか？　と云ふ疑問が多くの聰明な婦人達を動搖せしめ、彼女達の心にいろ〳〵のまぼろしを造ります。そして、彼女達は不安に襲はれます。けれども、とにかく、或る少數の婦人は、女性に對する社會の傳統的態度を、思想的に破壞したと同じように、實際の上に於ても破壞しようと努めて來ました。そして、或る程度迄の自由を得ました。

處で、自由は得たが、併し、其の自由を有効に使用するための能力を缺いて居たゝめに其の自由は人としての德として進歩向上のために利用することの代りに、却つて、墮落を、失敗を招致したと云ふ例が澤山あります。

此の失敗と墮落に對しては少なからざる社會の非難があります。此處から又問題が起つて居ます。つまり、現代婦人が獲得した人としての自由を、よし、彼女達が正當に利用しないからと云つて、それを非難するのは民主主義的ではないと云ふのと、否、それは不正不德であると云ふのとであります。これを他の言葉で云ふならば、歐米の先進國に於ては、法律上婦人は男子と同じようになつて居ます。けれども、社會の標準となつて居る道德は男子に寬であつて女子に酷であります。殊に、貞操問題に付ては男女の間に甚しい差があります。それで、此の問題を解決しようとして、乃至は解決するためのさぐりとして具體的に現れたものは小說であります。小說を通して貞操問題に革命を起し、そして、解決をしようと試みられました。

聖書の所謂『汝等のうち、罪なき者が彼女を打て』と云ふ言葉が現代婦人の要求する正義であります。云ひ直せば『姦通を普通事として居る男子が何故に女子の姦通に對して酷であらねばならぬか？』と云ふ疑問です。そして、所謂急進的な思想にかぶれた婦人達は他の婦人達が其れを疑問としてゐる間に、既でに〳〵男子と同等な戀愛の自由を實行しました。

ウエルス氏の或る一つの小說によると、其のヒロインは婦人の人としての自由を求めて止まない人物で

す。そして、或る大學の生物學の教授と戀愛關係が成立しました。二人は其の本國なる英國を離れて、スイッツランドの美しい花の中、靜かな山の中で樂しい甘い戀を語り合つて居ました。其の時に、男は自分には妻があること、其の外にも、いろ〱な女と關係して居たことを告白しました。けれども、それは二人の間に何等の氣まずいことも持ち來しませんでした。女は何等の不徹も矛盾も感じませんでした。それから、暫く後に二人が英國へ歸へると間もなく其教授のまだ離婚されてない妻は死亡しました。其の妻が死亡した以上は、二人は正當な夫婦として社會から認めて貰はうとして非常に苦悶して居るとゝ云ふ處で其の話は終つてゐます。

社會生活の徹底した解釋者と云はれて居るウエルス氏によつて、實際によくある題材をとつての此の小說は若い婦人迄に非常に持囃され大變な賣れ行きだつたと云ふことです。此處其處には非難の聲があつたとしても、併し、讀書界は其の小說の中に盛られた思想を歡迎し、そして、教授と戀愛關係を結んだ女の行爲を正當と認め、今日の又今後の女性の其れが模型であると考へました。

ウエルス氏が戀愛の三角關係を取り扱つたもう一ツの小說のうちの主人公も亦貞淑な妻を捨てゝイサベラと云ふ婦人と駈落をします。いよ〱駈落をする前に彼はイサベラに云ひます。

『どうも厄介なことをしてしまつたね。いや、我々が厄介なことをしたのでなく、周圍が我々に厄介をかけて居るのかも知れない。が、其のどちらだかは分らないが、とにかく、我々の名譽は地に落ちてしまつた。もう、どうすることも出來ない。何もかも捨てゝしまはう。こうなつては何を云つても到底用ひられはしない。私は今迄私が最も必要とするものは妻のマーガレットであると思つて居た。けれども、私は間違へて居たのだ。私の最も必要とするものは、イサベラよ、お前であつたのだ。私は、もう、何にも疑つたり考へたりする必要はない。此處迄進んで來た以上、お前と別れるなどゝ云ふことは考へて見る必要もない。むしろ、凡てを捨てゝ二人の愛を完成しよう。どん底迄二人で

行くとしよう。其處から出立し直さう。どんな恥も苦痛も二人で受けるのなら、むしろ私は其れを喜んで居るよ。』

以上述べて來たような戀愛の三角關係はわざ〳〵ウエルス氏の小說を持ち出さなくとも世間ザラにある事柄です。けれども、前にも云つた通り、氏は社會生活の徹底した解釋者として、又、有力な婦人論者として囑望されて居る人でありますから、氏の描く人物が現代人の好標準であると信じたからであります。彼の意見によると、開發された新婦人と云ふのは、前述の小說の主人公のように、相手の男の位置が何であらうと、つまり、妻子が既でにあつても、自分が愛するならば其の男と結婚することが出來る。そして、外に、其の男よりももつと好きな男が現れゝば又其の好きな男に行くことが出來る。其處に、何等の責任觀念はないのです。そして、それが所謂智力階級の婦人の意を大いに得たのであります。

處で、小說家であると同時に、哲學者であり、社會主義者であるウエルス氏は『新しいマキヤベリー』に於て、次のようなことを云つてゐます。

『婦人の反逆と世の混雜とを重れた後、有識な沈着な母性は國家に於ける婦人の特別な作用であることが明瞭になつた。男子が絕對權を持つて居て、其れに婦人が服從して居ることは墮落であると云ふことも明瞭になつた。私は婦人が虐待されることが止んでしまうことを切望する。私は、婦人及び次代の保護を目的とした結婚法を持ち、そして、市民として完全な資格のある婦人を眺めたい。優良な子供を生み養育することは公の義務、國家に對する貴い奉公だとして婦人が豐富な報酬を受け尊敬されるのを私は眺めたい。婦人は男子の奴隷になるのではなく、自ら進んで有識に自分の夫を選むべきだ。世界再建設のためには、婦人の社會的自覺が恰も、まだ、手の付けてない鑛山のやうに價値あるものだ。人は家庭の意義を悟り、其の價値を認めなければならない。家庭は婦人の王國であり、其の王國に於て婦人は光輝ある次代を養成しなければならぬ。』

ウエルス氏の此の意見には少しも誤まりはありませ

ん。全く其の通りでありますが、さて、此處で考へなければならないのは、同氏の小說に現れてゐるような人物がどうして同氏の主張に添ふような光輝ある家庭を造り得るかと云ふことです。なぜなら、其の小說に現れて居る人物は一時の悅樂に心を奪はれてしまつて將來と云ふことに付ては少しも考慮して居ません。

動搖し易い心の持主、一時の氣まぐれから戀をして、他の女性の苦しみに對しては何等同情する處もなく、放縱な其の行爲をもつて個人の自由だなどと宣言するような女には到底健全な次代を養成し得るような光輝ある家庭は造れません。

男は妻以外の婦人の容貌の美に引きつけられて自分の妻子を捨て、女は其の妻子の苦惱を見て見ぬ振りをして男と戀愛關係を結び得ると云ふことは、如何に彼等が精神的に貧弱な人間であるかと云ふことを曝露して居るものです。なぜなら、精神的な人々であるならば、容貌の美を見ると同時に精神の美も見なければならない筈です。妻子の苦惱を平氣で居るような、美貌の下にかくれて居る夜叉を無視して居ることは如何にも矛盾です。私共が人間の美を求むる時には、其の容貌の美と共に、人生の嵐に出會した場合ひに錨の用を爲す精神的の美であります。

個人、並びに、社會の幸福は常に貴い自己犧牲の精神によつて、創造されます。

けれども、常に感情に支配され、出來心によつて行爲して居る人間は社會の幸福を破壞し、ツイには自己をも破壞するものであります。なぜなら、出來心と云ふものは貴い根强ひ自己犧牲の精神とは正反對なものであります。

そして、此の貴い自己犧牲の發現は次代の善のために倦まず努力してゐる聰明な母性其物であります。

教育社會學講話（第二十一回）

社會階級の研究

最下層階級

優秀な人々の階級と低劣な人々の階級の基礎となつてゐるものゝうちに遺傳の恐しい勢力が數へられます。

これは、ゴッダード博士のカリカク家研究のうちの一節でありますが、米國革命の時、まだ靑年であつたマーテン●カリカクは軍隊に加はつて出征しましたが、其の出征中、附近に住んでゐた低能な娘に男の子を生ませました。そして、其の子は矢張り低能でありました。とにかく、其の子供は父の名を襲ふて居ました。そして、其の父の名を受け繼いだ子孫が今日迄に四百八十人ありました。其のうちの百四十三人は矢張

り低能者であつて、四十六人だけは先づ普通と云つてよいものだが、後の二百九十四人の能力は疑はしかつたり、又は、不明であると云ふことです。

で明瞭に分つてゐる其の子孫のうちの三十六人は私生兒、三十三人は貞操觀念を持たない賣笑婦、二十四人はアルコール中毒にかゝつた者、三人は癲癇、三人は刑事上の罪人、八人は淫賣屋の持主、そして、八十二人は嬰兒の頃死亡してゐるのです。

處で、出征中、低能な娘に低能兒を生ませたマーテン●カリカクは除隊後、品行を愼しみ、後に家柄の確かな家の娘なる淑女と結婚しました。そして、此の結婚から、前者とは全く性質を異にした一系が續いてゐます。其の數は四百九十六人であります。其のうちの僅か三人は稍墮落したと云へても併し缺陥のある人ではなく、二人は酒好き、一人は性的にゆるつたい人間、そして、嬰兒の時に死んだのが十五人あるだけで、其の外は皆心身の健全な人々で、低能者もなく、私生兒もなく、不道德な婦人も、癲癇も、犯罪人も皆無であると云ふことです。

此の例によつて見ても、階級の出來る原則がはつきりと分ります。惡系統に屬する人々は、最初の低能な娘の血を受けてゐるばかりでなく、其の系統に屬する人々に相當する人々と結婚をし、自分等が育てられた方法と同じ方法で子供を育てゝ居たに反して、善系統に屬する人々の子孫は、健全な血を受け繼いで居るばかりでなく、矢張り、自分等と同じ愼重な態度で配偶を求めて居る人と結婚をし、其の愼重な空氣の漲る家庭で子供を育てて居たからです。

ですから、社會の善と云ふ立場から考へるならば、矢張り、此の階級の原則と云ふものを認めて、善系統に惡系統が混入しないように奬勵すべきでありませう。清潔な血統に惡血統が混入することによつて、正直な生活をしてゐた血統が不正直な生活をするようになり、犯罪人をも造ることになりますから。

さう云ふ惡系統な人間は、同じ惡系統な人間と集合し社會の最下級の地層を造つてゐます。勿論、生活の度は最低であり、其處に造られる社會心は最低劣で、法律は無

視され、劣惡な不道德な快樂に耽り、何等の理想なく、努力もないのです。

個人の心、並びに、社會心と云ふもの丶うちには空間が存在することが許されてゐりません。ですから、もし、一つの理想と云ふものを缺いて居れば、其處に必ず劣等な衝動が侵入して行きます。そして、又、他の一方には自動力を缺いた懶惰な人間を利用しようとする惡人や狡猾な人間が常に存在して居ます。で、前にも云つたように、こう云ふ社會が存在する原因の大部分が遺傳的精神虚弱者にあると云ふことは、專問家の研究によつて證明されてゐる事實です。

尤も、精神虚弱な子供は必ず貧民階級からのみ生れると云ふわけのものでなく、あらゆる階級の家庭からも出てゐます。經濟的に豊かな家庭であつても不道德な生活をしてゐる家庭、又は、病氣のため、或ひは不圖した怪我からも精神虚弱者になる場合ひがありますが、併し、それは例外で、其の大部分は矢張り貧民階級から出てゐます。

其の上に、相當な家庭に生れた精神虚弱な子供は外界の惡感化を受けないように保護

され、本人の力相當な教育を授けられますから、同じ缺陷を持つて生れても、貧民階級の子供とは雲泥の差があります。

教育の影響

學校に於て、罰を受ける人間と裁判所で罰を受ける人間とは多くの場合ひ同一人物だと云はれてゐます。つまり、學校を無斷缺席する子供は後に犯罪を犯すようになるのです。それは、餘まつてゐる精力が悪い方へ導かれて行くからです。で、さう云ふ子供には嚴重な監督が必要であると云ふことは勿論でありますが、其の監督の任に當る教師は、社會學、心理學、教育學、衞生學、及び、其の他の人間性に關する廣い知識を持つた人でなければならないと云はれてゐます。

とにかく、凡ての兒童に同じ程度の教育を同一速度で授けようとする方法は二十年以上後れた教育法だとされてゐます。今より二十有餘年前、ボストンでは低能兒のための特別級を造りましたが、其の級の數は年々増加しつゝあつて、其れは既でに試み

の時期を過ぎてしまつてゐます。一九一三年の調査でありますが、其の時に既でに合衆國に於ては九十の都會に低能者のための特別級が造られてありました。そして、其の後も年々其の數は増加しつゝあります。

低能な子供や、其の他の缺陷ある子供を普通の子供と分離して、そして、適當な敎育を授けることは國民敎育の能率を增加する點に於て、重要な事柄であると考へられて居ります。

犯罪階級

敎師は犯罪階級と云ふものに付ての知識を得て置く必要があります。なぜなら、學校で適當に敎育出來なかつた子供は犯罪階級に入る可能性を持つて居ますから。勿論、學校が犯罪階級が造られる全部の責任ではありません。本人の生理上の缺點もあらうし、不良な家庭や近所の感化もあらうし、經濟上の不公平や、政治の悪いことなども其の原因となるに相違ありませんが、併し、それ等の悪影響に打ち勝つように敎育す

るのが矢張り學校の任務でなければなりません。且つ又、大抵の場合ひに於て、犯罪人になる人間は小學校時代に其の性格を現すものでありますから、其の頃から注意して善導しようとするのは矢張り敎育家の任務でありませう。

結論

今迄にいろ〳〵の階級を別々に分けて考へては來ましたが、併し、實際にはさうはつきりと區別出來るものではありません。隨分有福な家庭からも犯罪者も出れば低能者も出るし、又、貧民窟のうちにも高い知力を持つて居る人や高尙な人格者が或る關係から住んで居たりします。けれども、それは例外であると云ふことは前にも一寸云つて置きました。

最後の斷案として、一體、敎育は職業を基礎とした階級別を造るものであるけれども、出來るだけ階級と階級を接近させ、そして、共通な社會心を造ることを目的とすべきでありませう。そんならば、凡ての男兒も女兒をも有益な者となすために敎育し、

怠惰者を劣等なものと認むべきです。各々はそれ〴〵の自分の選んだ道に於て優秀な者となることを期し、そして、他の職業に從事してゐる人の上に自分が位ひすると考へることを愼しまねばなりません。それが人間生活のために有益である以上は職業に優劣はありません。他人の職業範圍に行くならば、其の他人に對して自分は一歩讓る必要があります。けれども、こちらの職業範圍に他人が來るならば、自分は何處迄も自分の熟練に對して權威をもつてゐて不都合ありません。もし、それが出來ないならば私共の生活は不安を免れないでありませう。（社會階級の研究終り）

編輯の後

本誌卷頭論文『婦人と財產權』のうちの二、三頁に渡つて書いてある一婦人は私の姉で御座います。自分の建てた家を捨てゝから過去十年の間私と同居し私の家の二階で裁縫教授をして居りましたが、其の二階では狹くなりましたので今月の始めに他に家を借りました。五四頁の『裁縫教授』の廣告主は矢張り其の人で御座います。家は別になりましたけれども從前の通り私共が監督を致します。

私が學校教育を受けなかつたと同じように姉も裁縫を先生から敎へられたのではありません。十七歲の時に家庭を持つてから必要に迫られ、縫つてあるものを解きながら急所の秘訣を悟ると云ふように苦心して覺へたのです。けれども家を捨てゝ上京致しました時分には一流の仕立屋のやうな腕を持つて居ました。無論にして居るわけにも行きませんので其の腕を利用して裁縫教授をしようと云ふことになり、それでも人樣に教へるには獨習だけでは不充分であらうと考へ、四十歲を近くして居りましたのですが渡邊裁縫學校へふりあひを見るために入學致し、自分の技術に付ての自信を得てから教授に從事致しましたのです。私共姉妹程月謝と云ふものを僅かしか出さなかつたものは世間にたんとはあるまいと云つて私共はいつも笑ひます。

本誌定價表

一册	六册	十二册
金二十五錢	前金 金壹圓四十錢	前金 金貳圓七十錢
送料五厘	（送料共）	（送料共、

〓誌代及郵税は前金の事〓御送金の際は振替貯金東京五三六八八番に御拂込みのこと〓郵券代用は五厘切手にて一割増〓廣告は御照會次第御相談いたします

大正十二年二月二十三日印刷納本
大正十二年三月　一　日發　行

東京四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人　山田嘉吉

東京神田區仲猿樂町十七
印刷人　大杉直次郎

東京四谷區南伊賀町四一
發行所　婦人と新社會社
振替東京五三六八八

英語 獨、佛、西 羅甸初歩 自由教授

○予が教授の趣意○

○予が英語教授の目的は、一般士人たるに必要な根本の智識を、主として英書に依つて獲得せんとする篤志者に對し、之を補助し之を奬勵するにある

○予が多年の經驗に依れば、撰擇宜しきを得た若干の書籍を、適當な順序で正確に讀破することは、専門家たるを要せぬ一般讀書子に取りて、眞に多大の効果がある。『今日の眞の大學は印刷した書籍の倉庫である』とカーライルは云つた、讀書子は大學に入らずに、能く學者たるの識見を養ひ得ることは、今や何人も之を認むる所である。現代の多くの男女にとりて、大學や高等の諸學校に入るは、容易のことではない。故に學校以外にある篤學の士は、最も善き種類と最も適當な課程の讀書に、其餘暇を利用し、獨り靜かに智識を貯ふべきである。

○故に予は、書籍の撰擇と讀書の順序とに、特別の注意を拂ひ、以て篤志な獨學者の友となり、他日その人をして、如何なる社會に立つとも、決して恥かしくないだけの學識を修得させたい考である。

○特に予は、篤學な婦人の爲に、婦人問題の研究を勸めたい。苟くも現代、進歩主義の男女にして、予が如上の志を諒とする諸君は、予が私塾に於て、有ゆる便宜と厚遇とを享くるの特權を有する。

◆略則

△教授科目□日用英語□英文學□政治、經濟、法律、哲學□宗教社會學等に關する英文名著の講讀及び講義□獨、佛、西、及び羅甸語初歩

△時間（午前八時より午後八時まで）

△休日（土曜、日曜及び祭日）

△月謝□二十分間五圓□四十分間十圓

○入學の日より其翌月の同日までを一ヶ月とし總て前納の事

△束脩 金貳圓

□尚ほ英文和譯、和文英譯の需めに應ず

東京市四谷區
南伊賀町四一
山田嘉吉